

平成 27 年度 経営協議会の学外委員からの意見等に対する対応状況

	経営協議会の学外委員からの意見	意見に対する対応
第一回 (平成 27年 6月 23日)	<p>社会人向けのドクターコースの概要、今後の展望について説明していただきたい。社会人ドクターであれば、産業界と大学の意向が一致するため、今後積極的に増やしたほうがよい。特に高水準の女性リーダーを育成する意味でも重要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会社等に籍を置いたまま、ドクターコースを履修できるシステムを実施している。 ・社会人女性向けに高度な学び直しの機会を提供する「微音塾」を開講し、既に社会に出ている女性がリーダーとなるための支援を行っている。 ・附属学校教員が、本学大学院で学位を取得するためのサバティカル制度を実施している。
	<p>保育と教育の機能を併せ持つこども園で、最先端の知の教育を進めていただきたい。</p>	<p>既存の附属幼稚園と保育所それぞれの教育・保育の実践及び研究成果を、認定こども園における今後の幼児教育のために活かしていくこととした。</p>
第二回 (平成 27年 10月 20日)	<p>お茶の水女子大学の教育研究の趣旨と、国立大学を社会として支えることの意義を理解してもらい、効率的に寄附金を集めたほうがよい。</p>	<p>新たに委嘱した学長特命補佐（ファンドレイジング担当）が中心となって戦略を練り、寄附金等外部資金獲得に一層取り組んでいくこととした。</p>
	<p>科研費の減少に対する今後の取り組みについて確認したい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・採択率向上のため、教職員対象に科研費の応募に向けたパワーアップセミナーを実施した。 ・研究計画書についてアドバイスを行うため、科研費の採択実績の多い研究者をメンターとした。 ・科研費の獲得に繋がる研究に助成するため、平成 27 年度においては下記の取り組みを行った。 <ul style="list-style-type: none"> * 科研費の申請件数、採択件数、採択額に基づく学内予算のインセンティブ付与。

		*採択実績のある科研費の研究種目より上位の研究種目へ挑戦する者への研究費配分。
第三回 (平成28年1月19日)	企業に対し本学の担う社会的役割をアピールし、奨学金の充実を目的とした寄附の拡大を積極的に検討してほしい。	現在立ち上げている未来開拓プロジェクトの戦略を練り、奨学金の財源を確保できるよう、企業等からの寄附の拡大に努めていくこととした。
	授業料の水準が経営上適切であるか判断し、授業料の増減を決める根拠となるため、授業料収入の用途を明確にすることは重要である。	授業料の用途を分析するとともに、他国立大学法人の動向を見据えながら今後の対策を考えていくこととした。
第四回 (平成28年3月15日)	コミュニケーションプラザ（仮称）等の整備計画について ・お茶の水女子大学の顔となる場所に建設されるため、社会と大学のアカデミックな要素が上手く交わるような施設にしていきたい。 ・整備計画には外部の専門家の知恵も取り入れているのか。	・国際的な教育研究拠点の形成、産学官連携の推進、地域防災拠点の形成等を事業コンセプトとし、他大学・企業・地域との連携や社会貢献の場となるよう、整備計画を検討している。 ・外部のコンサルタント会社や、大学運営に関し卓越した識見を有する者を委嘱している学長特別顧問の協力を得て、整備計画の検討を行っている。
	補助金及び受託研究による収入は大学の努力次第で獲得の余地があることから、予算上の戦略として、文部科学省から配分される予算だけでなく、努力目標にあたる項目があったほうが良い。	予算の基本方針に努力目標を記載することについて検討を行い、平成28年度外部資金獲得目標額を定めた。